



参考資料 2 これまでに頂いた御意見について

令和 5 年 6 月 30 日
環境省 大臣官房地域政策課



① 市町村の負担軽減（計画策定時の工夫等）

- 実行計画について、適応計画・生物多様性地域戦略など、他計画との一体策定を行うことが、政策の有効性、効率性の観点からも重要ではないか。
- 促進区域設定のタイミングを提示することも考えられる。都市計画等の見直しのタイミングで促進区域を考えることも有効。
- 実行計画について、既存の連携枠組み（定住自立圏、連携中枢都市圏）等を活用した、広域連携も重要ではないか。
- 他政策との連携も重要であり、庁内の連携体制強化が必要ではないか。
- 中長期的には農地の活用がある。事業者にとっては農業委員会や地域との関係・調整が難しいため、あらかじめ自治体が入っていると有効なゾーニングになるのではないか。
- 再エネ導入可能量を見極めた上で実効性の高い計画を策定するという観点から、区域施策編の前提として、促進区域を設定することも考えられるのではないか。

② 市町村へのインセンティブ強化

- 区域設定にかかる労力に対し、どのような効果があるか不明確。経済効果等、地方創生に資する効果が明示されるとよい。
- 事業実施に当たり、現地調達を求めること等を通じて、地域の担い手となる企業・人材の育成も考えられるのではないか。
- 再エネ立地自治体への財政支援や、再エネの地産地消の価値を明確にすること等を通じて、再エネ導入のインセンティブを付与する必要があるのではないか。
- 促進区域等を定めた市町村をブランド化し、カーボンニュートラルに積極的な企業誘致につなげるとともに、地域での再エネ事業人材育成や、再エネ業界団体とのコネクティングなど、再エネ拡大の実効的な支援をいただきたい。
- トップダウンという考え方も必要。首長に強力に進めていただくことも、大きく進む一歩ではないか。
- 再エネをFIT売電しても、区域内の脱炭素にカウントできないことが課題。

③ 事業者へのインセンティブ強化

- 固定価格買取制度について、環境プレミアムや地域毎の収益性等が買取価格に反映されるとよい。
- 地域貢献策や環境保全の取組は事業者の負担増となるため、固定資産税の軽減等、何らかの優遇措置が必要。
- 促進区域について、系統接続等の優遇が認められれば、事業者へのインセンティブとなるのではないか。
- 株式会社脱炭素化支援機構等を通じた、リスクの高い再エネ事業へのサポートがあれば、開発が進むのではないか。
- 促進区域の再エネに、地域共生型再生可能エネルギー事業顕彰の、地域共生マークを付与することも検討できないか。
- 太陽光について、土地や屋根で使えるところを示し、公募などをすれば、提案が出てくるのではないか。

④ 地域脱炭素化促進事業制度における国・都道府県・市町村・事業者等の役割分担、連携強化

【事業者の関与】

- 促進区域設定の段階では、事業者からも、候補地の短所・長所も含めて御提案いただくことができないか。
- 施策の実現には、自治体のみでなく、事業者の参入と協力が不可欠であるため、ゾーニング等の施策計画段階から、事業者の関心を高められるような取組・見える化が必要ではないか。

【国による支援等】

<ゾーニングへの財政支援等>

- 国によるゾーニングへの補助を拡充するとともに、進捗のフォローアップ・フィードバックが必要ではないか。
- 人材面・費用面での負担軽減のため、財政支援等を強化するべきではないか。
- GISによるゾーニングなど、技術的な部分については、専門的なところにアウトソーシングできるようにしてはどうか。

検討会における委員からの主な御意見・ヒアリングにおけるポイント



<人材育成・支援>

- 市町村に対して、プッシュ型で促進区域の利用を促すことのできる人材育成が、県・環境省地方環境事務所・地球温暖化防止センター等で必要ではないか。ドイツでは国主導で地域の中間支援人材の育成が行われている。
- 地域でビジネスマッチングに携わる地方銀行や税理士等を活用することで、専門人材の不足等に対応できるのではないか。
- 県内に町村が多くマンパワーがないが、県自身にも余裕がない。各地域のリーダーとなる官公庁職員の育成ができないか。
- 国や都道府県により、事業者の育成等ができないか。

<情報提供・マニュアル拡充>

- REPOS・EDASの改善等により、再エネポテンシャル等をより簡便に把握できる環境整備を進めるべきではないか。
- REPOSとの統合などにより、ゾーニングマップの更なる活用を進めるべきではないか。
- 市町村はマンパワーが不足しており、国や都道府県の許認可部署による情報提供等の体制構築が必要ではないか。
- 各地方環境事務所等でゾーニングや関連制度に関する理解促進セミナーを開催することが有効ではないか。
- 促進区域をどうやって使っていくかイメージが湧かない。モデルケースを自治体の特徴ごとに提示することが有効ではないか。
- マニュアルについて、地域特性ごとの事例や策定ポイントについて拡充すべきではないか。

<関係省庁の連携>

- 建築物省エネ法と温対法の促進区域の一体的運用を進めていくべきではないか。
- 都市計画法に基づく開発許可や国土利用計画法に基づく土地の取引の届出などについて、これらの手続時に地域脱炭素化促進事業制度を周知するなど、制度間の連携強化を進めていくべきではないか。
- 関連省庁の様々な支援ツールについて、省庁を超えたワンストップ問合せ先を設けるべきではないか。

<その他支援等>

- 自治体主導の再エネ事業への支援を強化してはどうか。
- 事業者の一方的な説明ではなく、双方向のコミュニケーションを促す等、再エネの事業規律を強化してはどうか。

【都道府県関与・広域連携】

- 特に風力発電事業については、促進区域の候補地が、尾根部・隣町との境界となることが多いことから、隣接自治体との連携方法や区域設定の扱いなどを整理する必要があるのではないか。
- 広域自治体である都道府県がゾーニング等を主導することで、促進区域設定等を効率的に行うことができるのではないか。
- 実行計画について、縦の連携として、都道府県が小さい自治体を束ねて策定することも考えられないか。
- 都道府県がゾーニング等に関与した場合、市町村の促進区域設定に最後まで関与するべきではないか。
- 都道府県基準が策定されていないと、基礎自治体からすると、まだ促進区域を設定しなくてよいと考えてしまう。

【環境保全の取組等】

- 促進区域の協議会に、環境団体等をメンバーとして位置付けることが合意形成の観点からも重要ではないか。
- 自治体や事業者向けに、「環境保全のための取組」のベストプラクティスやガイドラインを示す必要があるのではないか。
- 自治体の生物多様性地域戦略、OECM との整合、調整が必要。そのための支援にも期待。
- 事業提案型促進区域等では、特に立地適正や環境影響への科学的な判断は、市町村だけでは困難であるため、環境保全の観点から地方環境事務所、都道府県の環境部局、地域の環境団体を含んだ協議会の検討プロセスが必要。
- 環境団体や住民団体からの企画提案、例えば促進区域に関わるゾーニング案、事業者と連携できる環境保全活動、営農型太陽光発電、市民出資型の再エネ事業なども、積極的に取り入れられる仕組みも検討する必要がある。
- 30by30目標との整合性等も踏まえ、促進区域の国の基準は改善が必要ではないか。

⑤ 地方自治体による地域脱炭素施策の策定・実行の促進/地方自治体による地域脱炭素施策の見える化

- 今の実行計画の施策は抽象的な記載が多く、具体的なプロジェクトや数値目標が見えない。具体的な記述や数値目標の記載を推進することも必要ではないか。
- 環境省が脱炭素まちづくりアドバイザーを始めたが、自治体職員が、他自治体の職員にノウハウと熱を伝播する仕組みがあるとよいのではないか。
- 国・都道府県の出先事務所にて、近隣自治体ごとに、地域事情を踏まえて議論するセミナーなどの場を設け、制度の理解のみならず情報交換の場として活用することで、見える化の促進となるのではないか。
- 秋田県では風力発電の官民のコンソーシアムがある。民間と自治体で情報交換できる場があるとよいのではないか。

⑥ その他（検討において重要な視点等）

- 制度の内容・期待することをしっかり理解をしていただくことも大事。現場と制度目的のずれを解消するのが課題ではないか。
- 促進区域について、地域住民の理解を得られないことを懸念。事業者が地域に入りやすくするための促進策と、条例等による規制（事業規律強化）をバランスよく実施していく必要があるのではないか。
- ゾーニングと再エネ目標の検討をセットで進めることも重要ではないか。
- 自治体ではネガティブゾーニングになりがちで、合意形成で正しい理解が進んでいない。再エネに関する国民の理解促進を進めるのも大きな方向性の一つではないか。
- エネルギー政策や産業政策との連携も重要であり、太陽電池スタートアップの製品の使用等、促進区域を活用した需要・投資喚起も考えられるのではないか。
- FITや個別法の事業規律は強化されているので、これから入る再エネと、既に入っている再エネは違うと考えた方がよい。既に入っているものを長期的にどのように活用するか、集約化していくかが重要。長期的に地域にメリットあり、地域人材で回していけるとよい。
- 「促進区域」という言葉や、県基準やゾーニングマップの情報などが独り歩きしないよう、丁寧かつ継続的な説明が必要。